



伊久美川の再生策を探る

地元関係者と検討

9月20日(木)午後7時から島田市野外活動センター「山の家」で開催。この検討会には伊久美川地区の総代・有識者と組合役員合わせて14名が出席し、伊久美川の問題点が様々な角度から洗い出され、活性化に向けて再生策が検討されました。

その概要は次のとおりです。



↑「川の回復力を如何にして引き出すか…」
熱のこもった意見交換会

1. 放流方法の再検討

①問題点

- ・ 今シーズンは縄張りをつくるよりも固まった状態であるアユが多かった。5月中旬以降の放流魚はそうなる可能性があると思う。もう少し放流時期を早くした方がいいのではないかな。
- ・ 今年の不漁は大雨によるアユの流出も考えられるが、放流時期の遅れも一因。
- ・ 6月18～19日に上陸した台風4号以降、伊久美川の放流をもう少し増やした方が良かった。

②対応

- ・ 琵琶湖産を含めた優良種苗の確保、早期放流(3月)を検討する。
- ・ 以降、タイミングを図りながら、適時適所に河川規模も考慮しながら必要量を放流していく。

2. 魚道の改修

①問題点

- ・ 放流しても育たない、集中豪雨により流出する等、放流に偏った増殖策の限界が見えてきた。
- ・ 川口地先の魚道は何の役にも立っていない。改良はできないのか。
- ・ 天然、人工化を問わず、遡上のできる川づくりが急務。
- ・ 天然遡上のアユは大水が出てでも耐えられるのではないかな。魚道を改良し、天然アユを増やす取り組みを進めてほしい。

②対応

- ・ 魚道について組合運営の上で重要な位置付けをし、これから真摯に検討していく。
- ・ この問題は漁協単位では難しい。関係行政機関や利水にかかわる諸団体、中部電力などに協力を求め、速やかに協議検討を進める。

3. 水環境の改善

①問題点

- ・ 山崩れの場所が多く、泥水による汚濁水・河床への砂礫の堆積などで河川環境が悪化している。
- ・ 流量不足に伴う悪臭の発生が見られる。伊久美川上流部の環境についても調査が必要。
- ・ 川口や小川～中平の区間にかつて見られた多くの生息に適した淵が、度重なる河川改修での河床の変化によって減少し、漁場が劣化している。

②対応

現状の調査、対策を関係機関と協議する。

4. その他

①問題点

- ・ 伊久美川解禁日が遅く、繰り上げが必要。
- ・ 高齢者の遊漁料減額の必要性はない。

②対応

漁業権更新(H26年度)に合わせて上記2点を改正すべく、現在、新大井川漁協と協議を進めている。伊久美川は6月10日解禁、高齢者への遊漁料割引は撤廃する方向。